

都市化の勢いが増す東部の都市・大連と、西部の開発途上エリア・新疆。可能性を秘めた2都市に、当社の環境技術が貢献し、発展を支えています。



環境エンジニアリング、中国での大いなる可能性。

当社の海外展開の中でも重要な位置を占め、成長が見込まれる中国市場。巨大化を続けるマーケットにあつて、当社が注力する環境エンジニアリング事業が低炭素・資源循環に貢献し、ますます成長の勢いを強めています。

環境技術で有望マーケットへ進出

中国の経済発展は、東の沿海部から内陸へ進行し、高速道路や鉄道などのインフラ整備をはじめとする公共投資は、さらに西へ、奥地へと向かっています。最も西端にある新疆ウイグル自治区は開発途上にあり、中長期的にセメント需要の伸びが予測される注目のエリアです。

当社海外カンパニーは、太平洋水泥(中国)投資有限公司とともに実施した市場調査の中で約3年前、新疆天業集团有限公司と出会いました。省都ウルムチ市から西へ200 km、天山山脈の北麓中ほどに位置する石河子市を拠点とするこの会社は、PVC(ポリ塩化ビニル)を製造・販売しています。またその製造過程で副生するカルシウムカーバイド滓を原料としたセメント製造も行なっています。セメントの製造技術に関し、ノウハウのある当社が技術コンサルティングに関わり交流が始まりました。製造工程を調査した結果、工程を不安定にする塩素がかなり含まれていることが

判明し「塩素バイパスシステム」の導入を提案しました。

塩素バイパスシステムは、日本の当社工場にはすべて導入されている技術で、廃棄物を使うために必要な設備です。この設備導入によりキルンの安定操業が可能となり、エネルギー浪費を解消し省エネ効果が見込まれます。新疆天業集团有限公司は、他にも稼動・増設中のキルンがあり、1基目にこの設備を設置した後、運転指導等を通じ、さらに関係を強化していく計画です。新疆は、環境エンジニアリングの支援に留まらず、多面的に、スケール感のあるビジネス展開が見込める土地。天山山脈を望む大地には、手つかずのビジネスの鉱脈が眠っています。



新疆天業集団本社ビル



石河子市風景



海外カンパニー管理部 兼
太平洋水泥(中国)投資有限公司
包勤立。新疆プロジェクトの主
担当。

「中国企業とのビジネスでは、
じっくり関係を築くほうが後の展
開が速い。技術提携であっても
人間同士の信頼は不可欠です」。

省エネ・環境ビジネス推進プロジェクトとして採択

前述の「塩素バイパス技術の導出」は、2009年11月8日、中国北京市で開催された「第4回 日中省エネルギー・環境総合フォーラム」において省エネ・環境技術の“推進プロジェクト”として採択され、中国側と調印しました。同フォーラムでは、当社からも一つ「大連市における都市ごみ焼却飛灰のセメント資源化事業」が調印に至っています。



中国を悩ませる、都市ごみ問題の解決に向けて

現在、中国の都市ごみは1年あたり1.5億トンを上回るといわれ、都市への人口流入に伴ってさらに増加を続けています。焼却や堆肥などの処理施設は追いつかず、埋立処分、また投棄さえもが目立つ状況です。ごみ処理の、埋立から焼却への転換は一刻を争う課題であり、各行政区では対策が急がれています。そのような状況の中、大連市では4つの区でごみ焼却施設の建設に着手しました。当社拠点の一つ大連小野田水泥有限公司では、地元企業の大連東泰産業廃棄物処理有限公司と共同で、ごみ焼却後の飛灰のリサイクルを市政府に提案しています。

当社では、ごみ焼却飛灰を「灰水洗システム」により無害化し、セメント原料として再利用する技術を確立しています。日本国内では熊谷工場、藤原工場がこのシステムを運営し、地元自治体と提携して家庭ごみのリサイクルを推進しています。

中国においてもごみのリサイクル事業は、自治体との連携が欠かせませんので、当社の日本での実績を生かした事業システムの展開が期待されています。今後、ごみ処理システムやごみの成分の違いなどを調査し、現地の

ニーズに沿った改良を加えていくことになるでしょう。

焼却炉の建設と並行して、焼却灰の資源化事業が進められるところは、“環境モデル都市”としての顔を持つ大連市ならではの。中国における都市化のスピードをうかがわせません。この地でモデル事業を展開することは、他都市への伝播、影響力にも期待が持てます。

セメント工場の「都市との共存」が課題に

日本と同様、中国でもセメント工場の周囲が都市化していく傾向があります。「都市との共存」を考える時、当然ごみ処理をはじめ、環境面で地元へ貢献することが必須となります。環境への問題意識とスキルは、中国では未成熟。しかし都市化のスピードは勢いを増し、待たなしの状態です。中国においても低炭素・循環型社会の実現は喫緊の課題となっており、日本で実績のあるセメント環境技術を中国に移転しビジネスで貢献する絶好の機会です。



環境技術活用チームとして、
現地スタッフとともに調査、交渉
に携わった、設備&技術戦略活
用プロジェクトチーム 深見慎二。

「未成熟な市場だからこそ何かを得られるし、チャンスも大きい。ビジネス展開の面白さを予感します」。

VOICE

大連小野田水泥有限公司
総経理 王 昭文

生活の質とともに、環境意識も向上しています。

中国大連市では経済発展に伴い一般庶民の生活が以前に比べてとても豊かになりましたが、豊かな生活は大量の廃棄物を発生させる社会でもあります。太平洋セメントが所有する廃棄物処理の先進技術を導入して、産業廃棄物や生活ごみ焼却飛灰のセメント資源化を推進したいと考えています。

中国人の環境に対する意識も向上してきていますので、大連市の循環型経済の一端を担うことで企業価値を高めようと従業員一同で努力しています。

